

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700308		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地	千葉県佐倉市西志津7-14-3		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和6年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お食事を楽しんでいただけるよう、買物やメニュー決め、調理など利用者様と一緒に個々が出来ること、好きなことを引き出しながら支援しています。また、生活リハビリの支援に努め、お掃除や洗濯、家事など日常生活での下肢筋力低下防止、。手指先の運動、脳の活性化を心掛けています。季節感や生活を楽しんで頂けるよう一年の行事や日常のレクリエーション等を様々な企画を立てながら、外出の機会をもち、居心地の良い環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は新たに職員と一緒に考え「それぞれの心と想いをひとつに 喜怒哀楽のある暮らし」と定めた。利用者は調理の下拵え、下膳、掃除、洗濯物たたみなどできる事を職員と一緒にこなしている。持てる力を維持向上する良い取り組みだと思われる。年1回開催する家族会は参加者も多く、そこで出た意見については検討して反映できるようにしている。食事は職員が買い出しに行き、献立も工夫をして提供しており、おやつ作りを利用者と一緒におこなうこともある。月2回の訪問診療と週1回の職員である看護師により健康管理をおこなっており、24時間オンコール可能で、利用者、利用者家族、職員にとっても安心な体制がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員で新たに決めなおし、わかる場所に掲示しそれに沿ったケアを心掛けている	職員の総意で新たな理念を定めた。月次のフロア会議でホーム長から定期的に理念について話している。利用者ごとにどうしたら笑顔になれるかを職員で話し合い、認知症ケアについても定期的に研修で学んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、ホーム自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域とのつながりや、イベントごとへの参加のきっかけづくりを行った	近隣の散歩では近隣住民とは挨拶を交わしている。また、町内会に加入しており、行事の情報も得ることができているので、防災訓練や夏祭りなどに参加していきたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での研修等を通し、認知症の理解や関わりを持てるような働きかけをおこなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域やご家族への参加促しや、どのようなテーマが良いかなど投げかけ、年間予定を立て、定期的に開催している	参加者は家族、民生委員、地域包括支援センター職員で、利用者の状況や行事報告、ヒヤリハット・事故報告などをおこなっている。また、各回ごとにテーマを持って開催している。議事録は職員に回覧している。	参加者をさらに増やしたり、議事録を家族へ送付することもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ挨拶に行ったり、電話で相談をしたり、良好な関係づくりに努めている	介護保険についての相談などで市の高齢者福祉課とやりとりをしている。地域包括支援センターとは運営推進会議を介して相談し、意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に委員会を開催したり、研修をおこなったり、適切なケアを常に振り返りながらケアにあたっている	「身体的拘束適正化のための指針」を策定し、職員に年2回の研修を実施するとともに、身体的拘束適正化検討委員会を3か月に1回開催して現状について話し合っている。スピーチロックなど言葉遣いなどは職員間で注意しあう関係性がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に委員会を開催したり、研修をおこない、フロア会議などで適切なケアについて話し合いをしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	興味はあるが、なかなか深い理解まで職員間で共有できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要な部分は丁寧に説明し同意を得たうえでご入居頂いている、また入居時に退去、解約時の説明も行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会を開催し、意見交換や家族間の交流を図れるようにしている	家族とは面会時や運営推進会議で意見を聞くほか、年1回の家族会では活発な意見交換がみられる。家族からは災害時の対応や面会の制限についての質問が出た。また、行事等への協力の申し出もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議などで全体的な意見を聞く機会を作ったり、年に2回、個別面談で相談や話を聞く機会を設けている	職員には毎月のフロア会議で意見を出してもらっているが、面談の時や日常でも聞くようにしており、職員からは活発に意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう、スタッフの個性や特技を生かせるイベントを企画したり、やりがいに繋がる様、給料水準を上げるための入居率をあげたり入居満足度を高めたり工夫をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が充実してきて、必要な研修や興味のある研修に参加できる体制づくりをおこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の、系列施設との交流を図り、意見交換や刺激を受け互いに向上し合える雰囲気づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご本人にどのような生活を望まれているか、要望等伺い、環境が変わる事への不安を共感し、意見を伝えやすい環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族にどのような生活を望まれているか、ご本人が好きなことや興味のあることなどお話を伺い、生活しやすい環境づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングをし、必要な支援の優先順位を見極め、他事業所と連携を取りながらケアにあたっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の意思や真意を探り、出来る事、やりたいことなどを見極め、表情を引き出し生き生きとした生活を送れるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会が制限されている中で、ご家族の要望や意見をじっくりうかがう機会が不足しているように思います		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から親戚が来たら面会したり、マスクを着用した状態での外出をしたり、徐々に馴染みの関係の継続が出来るようになってきている	利用者の友人が来訪したり電話をくれることがある。来訪客とは居室での飲食も可能としている。また、家族と一緒に馴染みの美容室やドライブに出かける人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が悪化しないように職員が間に入り良好な関係作りをしたり、自然と洗濯物を干していると集まってきて談笑しながら家事をしたり雰囲気づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の行き先を紹介したり、何かあればいつでも相談に乗りますというお声掛けをしたり、常に窓口は設けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の、好きなことや嬉しそうにしている時など職員間で共有し、ホームでの存在意義や生きがいを持った生活が送れるよう努めている	家族から生活歴を聞くとともに、利用者との会話から思いをの把握に努めている。コミュニケーションが難しい利用者については、表情などから汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人や家族から昔からの趣味や、好きな事、一日の生活スタイルなど細かくたずね、ホームでの生活が大きな混乱なく過ごせるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に何ができて、何が好きか、どんな時に良い表情をされているか等アセスメントをし、スタッフ間で共有し自立支援に反映させている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にケアマネや管理者が不在だったり、直接ご家族様の要望をじっくりうかがう機会が取れていないことがある、健康面での大事な局面に関しては医師の訪問時に同席していただき話し合いの機会を持っている	計画作成担当者は、日頃聴き取った内容をモニタリング記録に残し、フロア会議で職員の意見を聞いている。利用者の状況によっては、医師や看護師からも情報をもらい、家族や利用者の意向を加味して、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化や気づきを、フロア会議や申し送りなどで情報を共有し、ご本人の出来ることを継続出来るよう支援している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況に応じ、ホームで出来る範囲の柔軟な支援に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防や警察など、緊急時や災害時などに備え連携を図っている。近隣住民にもこちらから挨拶をしたり、良好な関係づくりに努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療の医師に日常の健康管理していただき、利用者様やご家族の希望する病院があれば適宜受診出来るような体制を取っている	月2回の訪問診療と週1回の看護師による健康管理を実施している。専門医受診については、訪問医の指示により支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有システムを導入し看護師が日常の健康面の把握をしやすく、また相談や連絡も密にとれており、医師やご家族との連携に柔軟に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、病院と訪問診療医との情報共有が円滑に行くよう努め、安心して治療や生活が送れるような体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族の意思を確認し、入居中も定期的に意思確認をし、大事な場面で医師とご家族が直接相談をする機会を設けている	入居契約時に重度化した場合の説明をして同意を得ている。重度化したと医師が判断した場合、医師から家族に説明し、看取りを希望する場合は看取り介護計画書を作成して支援している。また、職員には看取りの研修を実施し、看取り後には振り返りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修と、フロア会議などで勉強会を実施し、急変時や事故発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	色々な想定訓練を年に2回実施し、災害時に備えている。近隣住民に挨拶をし、非常時に協力体制をとれるような関係づくりに心掛けている	火災想定避難訓練を年2回実施し、備蓄食料、備品の準備も進めている。BCPの作成も進めており、自然災害想定、夜間想定、停電想定などの訓練に取り組む予定である。	引き続き、備蓄品の管理体制や職員への繰り返しの周知が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けの口調や、入浴、排泄時などのプライバシーの配慮など、フロア会議などで定期的に話し合い、尊厳を大切にケアを心掛けている	排泄介助時、入浴時にはプライバシーに配慮して支援している。居室入室時には、必ずノックして入室することなどフロア会議で話し合い、尊厳を損なわない介護に努めている。また、法人本部が年1回、接遇研修を実施して、職員に意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お食事をリクエストしたり、行きたい場所や、ご本人がしたいこと、嫌な事を日頃のケアの中から収集し、スタッフ間で共有しご希望に添えるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな生活時間はあるものの、食事の時間や生活リズムを個々に合わせたり、その日の体調や気分に合わせて、臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には、好きなものを着用して頂いている、外出やイベントの際はおしゃれをして出掛けたり、気分転換をしていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、調理、盛り付け、後片付けなど、それぞれが出来ることを見極め、情報を共有し、役割を担っていただいている	食材の購入、調理は職員が交代でおこなっている。利用者は、調理の下準備や食器拭き、テーブル拭きなど、出来ることに参加している。おせち料理、ひな祭り、敬老会など行事食は利用者の楽しみな食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の適切な量や食事内容、食事形態を都度アセスメントし、量を記録に残し、医師や看護師とも情報を共有し適切な指導を受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをご自分で出来る部分はセッティング見守りをおこない、できない部分を支援している、また訪問歯科の口腔助言指導を受け、日常の口腔ケアに反映している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら、一人一人の排泄リズムを把握し、ご自分で出来る限り排泄が継続できるような準備を整え、トイレでの排泄を支援している	排泄の自立に向けた支援として、トイレでの排泄に力を入れている。排泄チェック表を作成して職員間で共有し、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らない様に、朝のヨーグルトや牛乳、日常の体操、飲水等で便秘の改善を図っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなかご希望に沿った入浴が実施できていない、入浴したいタイミングはご本人に確認したり、意思を尊重している	週2回の入浴を基本にしているが、利用者の気分や体調に合わせて入浴できるように支援している。入浴剤を使用したり会話を楽しむなど、入浴を楽しめるような支援に努めている。入浴できない場合は、清拭に変えて清潔を保持するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や体調に合わせ、日中に横になったり、日中なるべく活動を促し、夜間心地よい眠りにつけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時に医師、薬剤師同席し薬の適切な指導を受け、スタッフ間で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で、いろいろな家事やイベントやレクリエーションをおこない、ご本人が興味を持ったものや良い表情をされていた事など共有し、無理のない範囲で参加して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の予防に努めながら、買い物に出かけたり、近隣の公園に出かけたり外出する機会を設けている、ご家族にも協力いただきながらなじみの美容室やお墓参りなど行けるよう工夫に努めている	近隣の公園に散歩に出かけたり、家族とお墓参りに行く利用者もいる。外出できない場合は、バルコニーで外気浴をするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望者には、認知症がある共同生活のリスクをお伝えし、ご理解いただいた上で、自由に使えるお金を管理して頂いている、自販機や買い物時、好きなものをご購入いただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、携帯電話を持ち込んでいただいたり、ホームの電話は自由に使っているお手紙のやり取りは自由におこなって頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色のあかりや、自然光で温かみのある環境を整え、季節の装飾をしたりと季節感を感じていただけるような工夫をしている	日当たりが良く、明るいリビングで利用者は、ソファで寛いでテレビを見るなど思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのソファやベランダで日光浴をしながら談笑したり、スタッフが把握したうえで居室で個別に過ごして頂いたり、洗濯物をたたみながら自然と集まっておしゃべりしたり、思い思いに過ごして頂けるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険を伴うもの以外は、居室内慣れ親しんだ家具や嗜好品、ご家族の写真など、居心地の良い環境を整えている	清潔で広い居室には、家族の写真や時計、使い慣れた家具などを持ち込んで、居心地よく過ごせるようにしている。趣味の編み物の道具を持ってきて楽しんでいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な部分に手すりを設置したり生活しやすい環境を整え、危険回避の最低限の能力は損なわない様、見守りに努めながら支援している		